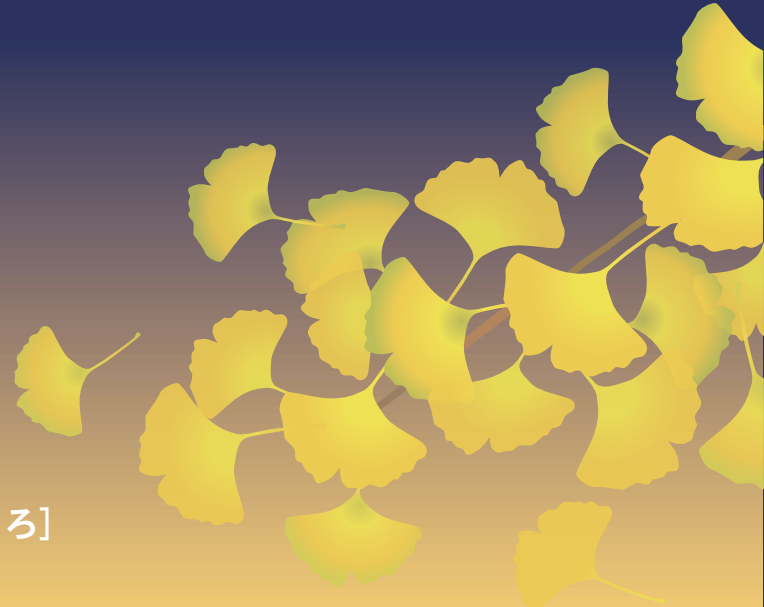


Vol. 4 TAKE FREE

KOKORO

Medical corporation Yamashita Hospital [こころ]

since 1901



<https://www.yamashita-hp.jp/>

お
な
か
の
病
院

おなかの病院



13 minutes walk from the station

99 beds
Acute-care 79
Community-based care 20



Medical corporation Yamashita Hospital

<https://www.yamashita-hp.jp/>

〒491-8531 愛知県一宮市中町1丁目3番5号 TEL: 0586-45-4511

 医療法人 山下病院
Medical corporation Yamashita Hospital

一宮市 おなか 病院

× | 🔍



連載 特集医師

しみず内科クリニック 院長

清水 智雄 先生

しみず内科クリニック 一押しポイント
医師インタビュー

3 p

4 p

5-6 p



山下病院 News

尾張そけいヘルニアセンター開設

山下病院 尾張そけいヘルニアセンター長
消化器外科 廣瀬 友昭 医師

そけいヘルニア(鼠径ヘルニア・脱腸)とは
局所麻酔で行う治療法紹介
全身麻酔で行う治療法紹介

7-8 p

9 p

10 p



Medical corporation Yamashita Hospital

おなかの専門病院

<https://www.yamashita-hp.jp/>





院長 清水 智雄 先生

今号の連携医療機関特集医師にご協力いただきましたのは、しみず内科クリニック、清水智雄先生です。

しみず内科クリニックは1948年に開設、2004年に清水智雄院長が引継がれ、長きにわたり地域の皆様の健康増進にご尽力されておられます。

また、循環器領域においては生活習慣病を含め、大変高い専門性をもった診療をされており、開院当初から「親身な医療」を掲げられ、患者さんに寄り添った良質な医療をご提供されています。

山下病院との連携は大変厚く、毎年多くの患者さんをご紹介いただいております。地域医療推進に多大なるご貢献をされてみえる先生です。

(文/山下病院 地域連携広報企画室)



しみず内科クリニック一押しポイント

しみず内科クリニックの特徴

先々代が当地で昭和23年に診療所を開設して以来、内科・小児科、さらに自分の専門分野である循環器内科の領域で地域医療に貢献できるクリニックを目指しています。

「親身な医療」をモットーに満足度の高い良質な医療を提供できるようにスタッフとともに日々頑張っていきたいと考えています。

対応検査

12誘導心電図／24時間心電図(ホルター心電図)／マスター運動負荷心電図
動脈硬化検査(CAVI)／超音波診断装置(カラードプラー)
呼吸一酸化炭素濃度測定器／スパイロメーター
一般レントゲン(胸部・腹部・その他)／透視(上部消化管) など



超音波診断装置 (カラードプラー)



動脈硬化検査機器 (CAVI)



親身な医療

Q 医師を志したきっかけを教えてください。

A 当地では祖父の代から開業しております。自分が産まれた時には祖父はすでに亡くなり、父が跡を継いりましたが、自然と医師を目指すようになりました。

循環器内科を志したのは研修医の頃、動悸で来院した患者さんを外来で治療して、その場で不整脈が治まって自覚症状が改善するということがよくありました。患者さんの症状の改善がその場で分かり、治療の効果を実感しやすい科であると思いました。

また、血圧、心拍数のように数字で出るデジタルな部分と心電図の微妙な変化を読み取るアナログな部分があり循環器内科に興味を持ちました。

当時は狭心症や心筋梗塞など動脈硬化(血管の老化)の病気に対して、降圧薬を含む内服薬や冠動脈インターベンション治療の発展期であり、循環器的な大きな課題である動脈硬化に対して医学的に夢が持てる科と感じて志しました。

Q 患者さんと接する上で、大切にされていることは何でしょうか？

A 当院のモットーとして開院当初から「親身な医療」を掲げています。まずは可能な限り患者さんの訴えを聞くように心がけています。

医学的な訴えだけでなく、病気への不安などで患者さんの日常生活に支障が出ないような診察を心掛けています。

Q 地域のかかりつけ医として、心がけていることを教えてください。

A 専門は内科・循環器内科で全ての診療科の診察・治療をこなすことはできません。しかし内科的な見地から専門外でも病診連携、診診連携を用いて的確に受診科のアドバイスができるように心がけています。患者さんの立場にたって自分がその状況であつたらどうするべきかを考えて医療を行なっていきたいと考えています。

インタビュー／山下病院 地域連携広報企画室



しみず内科クリニック

【診療科目】内科 / 循環器内科 / 小児科

【診療項目】一般外来 / 在宅医療 / 市民健診 / 予防接種

診察時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	○	—
16:00~19:00	○	○	—	○	○	—	—

【休診日】水曜日午後、土曜日午後、日曜、祝日



〒491-0859 一宮市本町4丁目21-14
TEL.0586-72-3348



この冊子を手にとってくれた方へのメッセージをお願いします。

循環器の病気は高血圧のように自分では症状を自覚しづらいものから、動悸など症状によって日常生活にブレーキがかかってしまうものまで多彩です。不安を伴うとますます悪い方向に向かうことも多いので、循環器の病気や症状でお悩みの方は是非一度ご相談ください。



「尾張そけいヘルニアセンター」開設

そけいヘルニア（鼠径ヘルニア・脱腸）とは

「そけい（鼠径）」とは左右の脚（あし）の付け根部分のことで、「ヘルニア」とは体の組織が正しい位置からはみ出した状態をいいます。「**そけいヘルニア（鼠径ヘルニア）**」とは本来は腹部にある腹膜や腸の一部が、鼠径（そけい）部の筋膜が弱くなった部分や、筋肉の隙間から皮膚の下に出てくる病気です。腸が出てくるのが比較的多いことから**脱腸**と言われたりもします。

主な原因

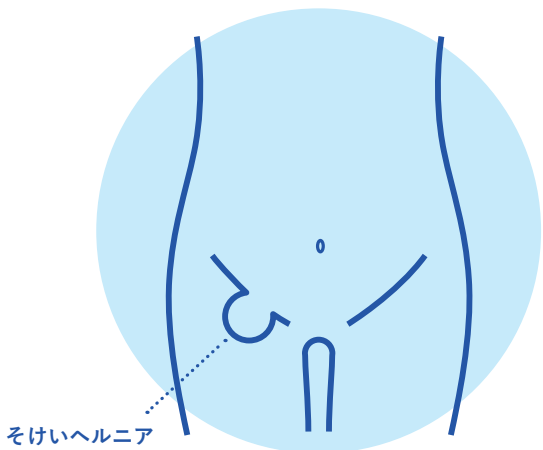
そけいヘルニアは脚（あし）の付け根の筋膜が弱くなってしまうことが原因です。生まれつきの場合もあれば、年齢とともに弱くなることもあります。おなかに力を入れると、重力の影響で脚（あし）の付け根部分に内側から力がかかってしまいがちで、それを支える筋膜が弱くなると、タイヤがパンクするようなイメージで隙間からおなかの臓器（腹膜や腸の一部）が飛び出てくることでそけいヘルニアになるとされています。

そけいヘルニアは乳幼児から中高年者まで幅広くおこる病気です。その原因は乳幼児の場合は先天的な要因（生まれつき）がほとんどですが、**中高年者の場合は加齢によって内臓や組織を支えている腹膜や筋膜、筋肉が衰えることにあります。**乳幼児、中高年でもそけいヘルニア患者の80%以上が男性です。これは、そけい管のサイズが男性は女性より大きく、比較的腸が脱出しやすいためと考えられています。

■ そけいヘルニアになりやすい人の特徴

- ✓ お腹に力がかかる仕事に従事する人
- ✓ 立ち仕事に従事する人
- ✓ 便秘症の人
- ✓ 肥満の人
- ✓ 咳を良くする人（喘息や慢性肺疾患）
- ✓ 妊婦

いずれもお腹に力が入る（腹圧がかかる）人に多く見られます。



■ 当院の診断の流れ

1. 外来診察時の問診でそけいヘルニアの可能性がある

2. 立った状態、または寝た状態でそけい部の診察

※ここで診断が確定する事が多いです

3. CT検査

※実際に何（小腸、大腸、内臓の脂肪など）がどの部位から脱出しているかを確認し診断精度を高めています。

当院のそけいヘルニア治療

そけいヘルニアの確定診断

治療方法の選択

局所麻酔で行う
そけい部切開法を選択

局所麻酔用の検査

全身麻酔で行う腹腔鏡下
そけいヘルニア修復術を選択

全身麻酔用の検査

※この検査結果により全身麻酔がお勧めできない場合は、腹腔鏡下そけいヘルニア修復術をご希望されていたとしても、局所麻酔下前方アプローチ法に変更させていただく場合もあります。

「中日新聞」に
2023年10月27日
に掲載されました！

※この記事写真等は、中日新聞の承諾を得て転載しています



尾張そけいヘルニアセンター 長
消化器外科部長
そけいヘルニア 外来

担当医師 廣瀬 友昭



局所麻酔で行うそけい部切開法

そけい部切開法では注射による局所麻酔と点滴による鎮静剤を併用して行います。実際の手術部位に局所麻酔の注射を打ち、手術を行う部分の皮下や筋肉、神経周囲に麻酔薬を浸潤させたのち、そけい部を5〜6cm切開し、切り込んでいきます。そして、そけいヘルニアの原因部分にメッシュを敷いて穴をふさぐように補強します。この方法はヘルニアの小さい方や痩せ型の方にはこの麻酔で十分可能であると思います。しかし、ヘルニアが大きい方や体型が太めで皮下脂肪の厚い方、またヘルニアが元に戻らなくなって(嵌頓状態)出っ張ったままの方にはあまり向かない場合もあります。

そけい部切開法の長所

- 局所麻酔で行える

※状況によりそけい部切開法でも、まれに全身麻酔が必要な事もあります

そけい部切開法の短所

- 手術直後にそけい部の痛みがやや強い
- 両側同時に手術は基本的には行えない

※同時手術を行っている施設もありますが、当院では麻酔薬の過量投与の危険性や感染性合併症の危険性の観点から、基本的には片側のみ行っています

手術時間

- 60分程度 ※手術室では局所麻酔や準備のためにプラス30分ほど時間を要します

入院期間（3泊4日）

- 手術前日：入院・手術のオリエンテーション
- 手術当日：午前から点滴開始↓手術↓ご自身の病室へ帰室 ※夕から食事開始
- 手術翌日・手術翌々日：キズの管理、自宅療養のオリエンテーション↓退院

全身麻酔で行う腹腔鏡下そけいヘルニア修復術（TAPP法）

そけいヘルニアの腹腔鏡下手術は、胃や大腸や胆嚢での腹腔鏡下手術とやり方は全く同じです。そけいヘルニアの場合は5mmから12mmの穴を3ヶ所開けます。そのうちの1つの穴から腹腔鏡というカメラを入れてお腹の中を映します。その映像をモニター画面で見ながら、別の2つの穴から入れた手術機器を操作して、手術を行います。お腹の内側からヘルニアの原因部分をみつけ、その部分にメッシュを当てて補強します。

腹腔鏡手術の長所

- 手術直後からそけい部の痛みが出にくい
- 傷跡が目立ちにくい
- ヘルニアが左右両側にあっても、同じ傷で左右両側を同時に治療ができる
- お腹の中を観察しながら手術を行うので症状の出ていない小さなヘルニアの見落としが少なく同時に治療ができる

腹腔鏡手術の短所

- 全身麻酔が必要のため心肺機能などの問題で受けられない方には施行できない
- おなかの手術をしたことがある場合には、行えないこともある

※当院では、患者様の身体の状態や希望などから、最も適切な手術方法を選択するようにしていますので、手術方法の選択に関しては遠慮なく医師にご相談ください

手術時間

- 片側で60〜70分程度、両側の場合は120〜150分程度

※手術室では全身麻酔や準備のためにプラス60分ほど時間を要します

入院期間（3泊4日）

- 手術前日：入院・手術のオリエンテーション
- 手術当日：午前から点滴開始↓手術↓回復室へ帰室 ※手術後は回復室で1晩過ごし、手術翌日：朝の回診の後、ご自身の病室へ帰室 ※歩行練習、キズの管理、昼から食事開始
- 手術翌々日：キズの管理、自宅療養のオリエンテーション↓退院

廣瀬 医師よりメッセージ

そけいヘルニア（鼠径ヘルニア、脱腸）というのは、脚の付け根の部分が膨らむ病気で非常に繊細な部分の病気です。症状でお困りの方、どこに受診すれば良いか分からずにお困りの方も多いため、より安心して、お気軽にご相談いただける環境、また、専門的な治療を安全にご提供できる環境を作るために、このたび当院に「尾張そけいヘルニアセンター」を開設させていただくことになりました。当院スタッフ一同、力をあわせてより良い環境を作っていきたいと思いますので、ご支援の程、よろしくお願いいたします。



尾張そけいヘルニアセンター長
消化器外科部長
そけいヘルニア外来

担当医師 廣瀬 友昭

そけいヘルニアに関する相談専用窓口

専任スタッフが対応いたしますのでお気軽にご連絡ください

予約電話番号： **0586-22-9383**

予約受付時間： 祝日を除く月曜から金曜 9時～17時

そけいヘルニア外来は **毎週月曜～金曜午後・土曜午前、予約制** となっております